NO.30
2023年8月24日
発行所＊グループリビング運営協議会
〒352-0033
埼玉県新座市石神2-1-4
TEL048-480-4150
発行者　小島美里
編集人　土井原奈津江

# GLnet会報

## グループリビングえんの森　３年間の変化

グループリビング運営協議会　会長
NPO 法人暮らしネット・えん　代表理事
小島 美里

異常に暑い夏ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。35℃越えは珍しくもなくなり、40℃を記録した地域が報道されます。台風が来れば「経験したことがないレベル」でテレビは「いのちを守る行動を」と呼びかけます。天災だけでなくオレオレ詐欺に加え暴力的な高齢者狙いの犯罪は多発し、グループリビングえんの森への入居希望理由も、災害や犯罪被害の恐れを上げる方が増えています。ＣＯＣＯ湘南台を始めるころには、犯罪被害のことまでは視野に入っていなかったように思います。時代の変遷とともに、求められる役割も少しずつ変化するのですね。とはいえ凶悪犯罪の発生数は年々減少しているそうですから、過剰に反応するのはよくないかもしれません。

さてコロナ禍の 3 年間、それぞれのグループリビングの過ごし方は大きく違ったようです。わがグループリビングえんの森は暮らし方が一変しました。居住者さんが通っているデイサービスでクラスターが発生、隣接する法人内の事業所でも感染者が出るといった事態を踏まえ、数少ない約束ごとだった「夕食を一緒にとる」ことを中止し、使い捨てのお弁当箱での提供に変えました。居住者主催の音楽サークルをはじめ、地域交流もほぼすべて中止になりました。居住者の意志で決定したとはいえ、グループリビングの良さを損なったことは確かです。他のグループリビングの報告では一緒の食事を続けたところも多かったと聞くと複雑な気持ちになります。しかし昨年夏には隣接するグループホームえんでクラスターが発生し 92 才の方が亡くなられていますから、いたし方なかったかとも。複雑な気持ちです。

そんなこんなの３年間に、亡くなられた方、介護度が上がるなどで施設に移られた方が相次ぎ、開設時からの居住者さんは 2 人だけになりました。えんの森のこれからを新しいメンバーとともに作っていきたいと思います。コロナ禍は様々な変化を巻き起こしました。

# COCO 多治米（たじめ）が竣工しました@広島県福山市

一般社団法人自立と共生のくらし
代表理事 中川惠子

2023 年 4 月 23 日（日）、グループリビング『COCO 多治米』を竣工しました。その折にはグルーリビング運営協議会の皆様からあたたかいメッセージを賜りまして大変ありがとうございました。また、ご相談ご助言をいただいている福山大学佐々木伸子先生をはじめたくさんの方々よりお祝いのメッセージやお花などを頂戴いたしました。この場をお借りいたしましてお礼と感謝を申し上げます。皆様の励ましとご期待にお応えできるよう精いっぱい頑張りたいと思っております。

さて、竣工式では代表理事中川の挨拶とご協力いただいた方々への謝礼、そして土地提供者様と融資銀行、建設会社の皆様に感謝状を贈呈。その後、内覧会を行いました。

当日は、『COCO 多治米』建設にあたってご協力をいただいた方々、ご近所の方々など 40 名以上が訪れ、祝ってくださいました。また、地方新聞の取材があり、次の日の記事になり広く知っていただくことができました。

竣工式に先立ち 4 月 4 日には FM ラジオに出演、広島・岡山の情報誌のインタビュー掲載などマスコミでの広報を行い、その反響として問い合わせや見学がたくさんありました。

竣工式の翌日から 5 月いっぱいは見学期間としました。“ラジオを聞いて興味を持ったので詳しい話を聞きたい”、“親は介護施設でとてもよく面倒を見てもらったが、自分は施設へは入りたくないので老後をどこで暮らすかを考えている、グループリビングの住まい方は理想的に思える”、“今は夫婦で暮らしているが一人になったら是非居住したい”、“グループリビングとはどのようなものか見てみたい”等々、いろいろな方が見学に来られました。また、“地域に開かれたサロン”を利用してオーラルフレイル予防などの取り組みを行いたい、という申し出があったり・・（また、いろいろな業者さんの売り込みも・・おはなしを聞くだけでも参考になりました）。

6 月下旬に入居がお二人あり、7 月には 1 名契約。当初、予約されていた方が諸事情により延期になったり中止になったりしたので、まだ定員に余裕があります。そこで、『グループリビン

グ』という住まい方がまだまだ知られていないためなので居住してほしい人にどのように伝えていくか、ということを COCO 多治米運営委員会で話し合っているところです。現在はリーフレットの作成、SNS での情報発信などを準備中です。また、10 月 23 日にオープン記念コンサートとして『オペラシアターこんにゃく座』の歌役者さんのサロンコンサートを行ない、『グループリビング COCO 多治米』をたくさんの方に知っていただく機会にしたいと思っています。

今後は、『グループリビング COCO 多治米』の存在と魅力をしっかり発信して居住者の募集を行ないたいと考えています。同時に、地域とのつながりを作っていくための楽しいイベントをボランティアの方々と一緒に計画していきたいと思っています。今後ともグルーリビング運営協議会の皆さまからのアドバイスやご支援をよろしくお願いいたします。

竣工式、中川氏挨拶。
左のカメラを構えているのは山陽新聞の記者

# COCO 宮内　お茶会を開催しました。

NPO 法人グループリビング川崎
理事長　原眞澄美

コロナが少し収まり、
自由な雰囲気が出てきたこの頃です。

木田橋さん（理事）の手作りシフォンケーキに
これまた手作りの
ブルーベリーとイチゴジャム、生クリームなど
好みの物をかけて
いただきました。

お茶は紅茶、コーヒー、
それぞれの好みで。

# 「スウェーデン・デンマーク協同住宅視察報告会」のお知らせ

会員の宮野順子氏と土井原奈津江氏が 6 月にスウェーデン 4 件とデンマーク 2 件の協同住宅の視察をおこないました。北欧の協同住宅の取り組みについて以下の日程で報告会を開催します。

日時　　：2023 年 8 月 29 日（火）19:00～20:30

場所　　：オンライン　＊URL は後日お知らせいたします。

参加対象者：会員：運営者、スタッフ、居住者。研究者、
これからグループリビングをつくりたい人、グループリビングに興味のある人等

参加費　　：無料

---

## ■ 視察日程・訪問先

スウェーデン

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 月 15 日 | フェルドクネッペン | Fardknappen/Färdknäppen） | （シニア向け） |
| 6 月 16 日 | クーパン | Kupan | （多世代向け） |
| 6 月 17 日 | ボーアクティブ | BoAktiv Landgången | （多世代向け） |
| 6 月 18 日 | ソフィルンド | Sofielunds Kollektivhus | （多世代向け） |

デンマーク

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6 月 19 日 | デン・スリー・リブ | Den 3.Revle | （シニア向け） |
| 6 月 18 日 | エルドア・セイエン | EldreSagen（コハウジング普及・啓発機関） | |
| | カメリアハウス | Kamelia Hus | （シニア向け） |

---

## グループリビング運営協議会メンバー募集中

グループリビング運営者はもとより、これから作りたい人、応援したい人、研究したい人、またグループリビングという名称に拘らず、グループリビングに類似した共生の住まいも対象にしております。

【活動内容】

1. グループリビングへの支援・相談
2. ワークショップの開催
3. ホームページの運営
4. グループリビングの調査研究
5. その他、本協議会の目的を達成するために必要な事業。

＊詳細は以下の URL にあります。

http://glnet-groupliving.org/glnet/glnet-recruit

**編集後記**

スウェーデンでは、グループリビングのお手本となったコレクティブハウスは国民的に知られている住まい方だと思っていました。しかし、驚いたことに、ストックホルム在住の通訳の方は「このような住まい方があることを初めて知った。他の人もあまり知らないと思う」「スウェーデンの人は孤独を好むので、このような住まいがあるのは意外」と言われました。

ところで、コレクティブハウスのような協同居住に関心のある人の割合はどのくらいだと思いますか？

2010 年におこなわれたコレクティブハウスの世界大会では、どこの国でも「コレクティブハウスに興味がある」と答えた人は約 2%と発表されたそうです。この 2%を「少ない！」と考えた方も多いかと思います。しかし、商品で考えてみると、2%は大ヒット商品になります。

コレクティブハウスと同様にグループリビングもニッチな市場です。国際的に考えると、文化や家族観は違うけれど、求めている割合は同じ。誰もが住みたいと考える住まいではないけれど、こういう住まい方を求めている人がいるのも事実です。

日本では他国にくらべて家族の関係は強いと言われていますが、家族との関係が切れると孤立化するとも言われています。また、未婚化の進展や核家族化により高齢者単身世帯が増加しているのに加え、地域とのつながりが脆弱になっています。グループリビングは人とのつながりを少ない努力でつくることのできる住まいであり、孤独、孤立を防ぐための 1 つの選択肢だと思います。（な）

編集委員　小島美里　土井原奈津江